

「駅業務委託のさらなる推進について」

申13号 説明申し入れ 確認事項 ①

【第1項 駅業務委託の支社別実績】

○現時点で約 370 駅の駅業務の全部または一部を委託している。

盛岡30、秋田10、仙台50、水戸20、千葉50、東京30、横浜30、八王子40、大宮30、高崎20、新潟50、長野20 ※各支社数も“約”の数字です。

【第2項 業務委託駅におけるシニア雇用・エルダー雇用・出向者の割合】

○シニア・エルダーで5割強、出向で4割弱となっており出向者は年齢の高い方である。

○シニア雇用の方が後1年くらいの雇用であり、その後はエルダー雇用の方になる。

○2コブ目に相当する国鉄採用の社員は7,000名が10数年で退職しエルダーとして残ることになる。

【第3項 第二の大量退職期を迎える中での高齢者雇用の枠数。10年先の営業職場における要員需給について】

○現時点で委託されている約 370 駅ではおよそ 1,300 名の枠である。

○60歳でエルダー雇用となって5年働いていただけだが、今後最大 4,000 名以上の雇用の場が必要となる。そのうちどれだけの人がエルダー雇用を希望するかはわからない。

○新採は5年前は 1,400 名採用していたが、現在 1,700 名採用している。しかし、要員需給は首都圏厳しい。一定程度クリアするためにグリーンスタッフを採用している。

○営業職場の現在の標準数は 1 万 2500 名だが、IT 化が進むと窓口の維持ができるのか。利用客も減る。別の事案として効率化は必要となってくる。

【第4項 5支社の駅業務を委託する対象の規模を拡大する必要性】

【第5項 7支社にフロパー社員を従事させる必要性】

○お客さまの動向・ニーズの変化に対応できる体制をつくるため。IT 化により人を介さないサービスは増えてくる。しかし駅を利用する人はいるので駅をなくすことはできない。維持するためにグループ会社と一体となって体制をつくっていく。

○5支社の乗車人員2万人の枠をとるということは「NF2008」以降ほぼ計画通りに委託を進めてきて今後委託する駅がない。

○2万人の枠を外すが、運転取扱などは委託できない。大規模な駅の一括委託はない。

○エルダー希望のミスマッチを出向で補ってきたが、これからはエルダーで補っていく。

【第6項 委託可能業務について】

○資格を要する運転取扱業務以外の業務である。

○安全とサービスのレベル維持は必要なので教育・訓練を受託会社で行う。

その2に続く